

科目名 【英】	一般臨床医学 General Remarks of Clinical Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	-------	-------	--

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を100%とする。
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		呼吸器疾患1	呼吸器疾患各論風邪症候群より肺結核まで理解する
2		呼吸器疾患2	呼吸器疾患各論気管支喘息より気胸まで理解する
3		診察各論3	様々な検査方法を習得し、実施することができる。
4		診察各論4	代表的な兆候について説明できる。
5		主要な疾患1	呼吸器疾患について説明できる。
6		主要な疾患2	循環器疾患について説明できる。
7		主要な疾患3	消化器疾患について説明できる。
8		主要な疾患4	代謝疾患について説明できる。
9		主要な疾患5	内分泌疾患について説明できる。
10		主要な疾患6	血液造血疾患について説明できる。
11		主要な疾患7	腎尿路疾患について説明できる。
12		主要な疾患8	神経疾患について説明できる。
13		主要な疾患9	感染症について説明できる。
14		主要な疾患10	リウマチ・膠原病・アレルギー疾患や環境要因による疾患について説明できる。
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	心理学 Psychology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木	時 限	5

担当教員	静間健人	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	1. 科学的な心理学の研究法。 2. 知覚、記憶、学習。 3. 認知心理学。 4. 社会心理学。 5. 臨床心理学。 以上の側面について学ぶ。
到達目標	心理学の基礎知識を学び、人間の行動のメカニズムを理解できるようになること。 他者の意見を尊重しながら自身の意見を主張することができるようになること。 以上のことが期待される。

準備学習 時間外学習	授業内容の復習が必要（振り返りの課題をやらせよう）
使用教材	教科書「図説 現代心理学入門（倍風館）」
留意点 備 考	適宜プロジェクターを使用しパワーポイントを呈示する。

成績評価	筆記試験80%、出席態度・レポート20%
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		心理学1	心理学とは何か、心理学の諸領域 心理学には様々な領域があることを説明できる。
2		心理学2	心理学の歴史 心理学がどのように発展してきたのか、歴史を説明できる。
3		心理学3	心理学研究法 心理学研究のアプローチを説明できる。
4		心理学4	感覚・知覚 日常生活における感覚・知覚のはたらきを説明できる。
5		心理学5	記憶 人の記憶には、どのような種類・働きをしているのか説明できる。
6		心理学6	学習 人における新しい行動獲得の過程を説明できる。
7		心理学7	感情 感情の種類、感情のはたらきを説明できる。
8		心理学8	自己 人が自分をどのように認知し、自分らしさを獲得していくかを説明できる。
9		心理学9	対人関係 他者に対する態度や対人関係の形成について説明できる。
10		心理学10	コミュニケーション コミュニケーションと個人間の社会的影響について説明できる。
11		心理学11	集団 集団という社会的環境が人に与える影響を説明できる。
12		心理学12	成熟と成長 人が一生を通していかなる行動変化を見せるのか説明できる
13		心理学13	パーソナリティ パーソナリティ理論、測定の方法を説明できる。
14		心理学14	ストレスとストレス対処 ストレスと適応について説明できる。
15		試験解説	前期試験解説
16			

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 1			必修/選択	必修	授業形式	
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜	時 限	3. 4. 5

担当教員	正木大吾	実務者経験	整骨院開業 26 年目、骨折脱臼の臨床約1,000症例。
------	------	-------	------------------------------

学習内容	各骨折、脱臼の特徴、発生機序、症状、鑑別疾患、合併症、後遺症を学び整復法、固定法、後療法を学ぶ
到達目標	転位の大きい骨折や脱臼は鑑別しやすいが小児や高齢者は軽微な外力でも骨折を起こすので臨床経験から不全骨折、若木骨折などの鑑別法を理解させる。また骨片転位の大きな場合の立体的な転位を理解させ整復操作ができるようにさせる。

準備学習 時間外学習	解剖学の骨、筋、神経の復習
使用教材	柔道整復学理論編と柔道整復学実技編
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 100 点
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		理論	柔道整復師の業務（外傷性疾患の施術、通所介護での機能訓練）の臨床を理解することができるようになる。
2		理論	肘関節部の解剖と機能。肘関節部の損傷を理解できるようになる。
3		理論	上腕骨顆上骨折の特徴、発生機序、骨折線、骨片転位が例解できるようになる。
4		理論	小児肘関節部のレントゲン写真の特徴を学ぶ。成人と小児のレントゲン写真の違いを理解させ tilting angle やBaumann角を教え骨折時の骨片転位を理解できるようになる。
5		理論	上腕骨顆上骨折の伸展型、屈曲型骨折の発生機序、症状、肘関節後方脱臼との類症鑑別を理解できるようになる。
6		理論	上腕骨顆上骨折の合併症、循環障害、フォルクマン拘縮、正中・橈骨・尺骨神経損傷を学び臨床での検査法、鑑別ができるようになる。
7		理論	上腕骨顆上伸展型骨折と屈曲型骨折の整復法、固定法、後療法を学び理解できるようになる。
8		理論	上腕骨顆上骨折の後遺症を学ぶ。上腕骨特徴と複雑な骨折線が理解できるようになる。
9		理論	上腕骨外顆骨折の pull of・push off型の発生機序、骨折線と骨片転位、整復法、固定法、後療法を理解することが出来るようになる。
10		理論	上腕骨内側上顆骨折の特徴、発生機序、骨片転位、症状、分類、が理解できるようになる。
11		理論	上腕骨内側上顆骨折の骨折型、成人と小児の違い、骨端線離開、Little leagur's elbowの病態を理解出来るようになる。
12		理論	橈骨近位端部骨折の発生機序、骨折型、成人と小児の違い、症状、合併症が理解できるようになる。
13		理論	肘頭骨折の発生機序、症状、固定法、後遺症が理解できるようになる。
14		理論	肘関節脱臼の分類、肘関節後方、前方、側方、開排脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症、を理解できるようになる。
15		前期試験の解答と解説	前半は前期試験問題の詳しい解説と回答。後半は橈骨頭単独脱臼、肘内障の発生機序、症状、整復法が理解できるようになる。
16			

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論2 Clinical Judo Therapy Advanced			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2019年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復術に必要な下肢の外傷や障害を学ぶ。また、臨床推論を構築するための統合的知識を学ぶ。柔道整復師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科学との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、教科書『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学・運動学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験97%、小テスト2%、出席率1%で評価する。
------	---

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	膝関節の解剖と機能 1	評価基準・講義に関する略号・膝関節【膝関節部の解剖・下肢のアライメント・膝蓋骨の機能・バイオメカニクス】膝周辺の解剖やアライメント・機能に関して説明ができる
2	大腿遠位端部骨折 1	小テスト。前回の復習。大腿骨遠位端部骨折【顆上骨折・大腿骨遠位骨端線離開・顆部骨折】大腿骨の顆上骨折や遠位骨端線離解、顆部骨折について説明ができる
3	大腿遠位端部骨折 2	小テスト。前回の復習。大腿骨遠位部端部骨折【MCL 付着部裂離骨折・Periglioni-Stieda骨折】MCL 付着部裂離骨折・Periglioni-Stieda骨折の説明ができる
4	大腿遠位端部骨折 3 下腿骨近位端部骨折 1	小テスト。前回の復習。大腿骨遠位部端部骨折・下腿骨解剖【MCL 付着部裂離骨折・Periglioni-Stieda骨折】MCL 付着部裂離骨折・Periglioni-Stieda骨折の説明ができる
5	下腿近位端部骨折 2	小テスト。前回の復習。下腿近位端部骨折【顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL 付着部裂離骨折】下腿近位端部の顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL 付着部裂離骨折について説明ができる
6	下腿近位端部骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿近位端部骨折【脛骨粗面隆起骨折・腓骨頭単独骨折・Segond骨折】下腿近位端部の脛骨粗面隆起骨折・腓骨頭単独骨折・Segond骨折について説明ができる
7	膝関節脱臼 膝蓋骨骨折	小テスト。前回の復習。膝関節脱臼【前方脱臼・後方脱臼・側方脱臼・回旋脱臼】・膝蓋骨骨折【分類・症状など】膝関節脱臼・膝蓋骨骨折について説明ができる。
8	膝蓋骨脱臼 膝の軟部組織損傷 1	小テスト。前回の復習。膝蓋骨脱臼【分類・症状など】半月板損傷【半月板の機能・損傷の分類など】膝蓋骨脱臼・半月板の機能や損傷の分類が説明できる。
9	膝の軟部組織損傷 2	小テスト。前回の復習。半月板損傷【発生機序・症状・検査法・治療法など】半月板損傷の説明ができる。
10	膝の軟部組織損傷 3	小テスト。前回の復習。靱帯損傷【十字靱帯や側副靱帯の機能、発生機序・症状など】靱帯損傷の説明ができる。
11	膝の軟部組織損傷 4	小テスト。前回の復習。小児の膝変形【原因疾患】・ジャンパー膝【オスグッド病・SLJ病等】小児の膝変形やジャンパー膝についての説明ができる。
12	膝の軟部組織損傷 5	小テスト。前回の復習。分裂膝蓋骨【疫学・分類など】・腸脛靱帯炎・鷲足炎。分裂膝蓋骨や腸脛靱帯炎・鷲足炎についての説明ができる。
13	膝の軟部組織損傷 6	小テスト。前回の復習。膝蓋大腿関節障害・関節包滑液包の異常・神経麻痺【総腓骨神経・伏在神経】膝蓋大腿関節障害・関節包や滑液包の異常・足の神経麻痺についての説明ができる。
14	膝の軟部組織損傷 7	小テスト。前回の復習。その他の疾患【悪性腫瘍・離断性骨軟骨炎・関節リウマチ・偽性痛風・大腿骨顆部骨壊死・変形性膝関節症】その他の疾患の概要が説明ができる。
15	試験解説	前期試験解説
16		

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論3 Clinical Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	-------------------------------------

学習内容	柔道整復学における前腕部の骨折、脱臼、軟部組織損傷及び手関節部における軟部組織損傷に対する病態、症状、治療法について学ぶ。
到達目標	症状や発生機序を理解し傷病の決定、治療法の決定ができる。臨床現場において実際に活用できるレベルかつ、柔整国家試験に対応できるレベルに到達できる。

準備学習 時間外学習	解剖学（特に筋学、骨学）の予習復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		前腕部損傷 1	前腕部の解剖と機能を理解、説明できる。前腕骨骨幹部骨折の概要を説明できる。
2		前腕部損傷 2	橈骨骨幹部骨折の概説、発生機序、転位、症状、が説明できる。
3		前腕部損傷 3	橈骨骨幹部骨折の合併症、治療法、後遺症が説明できる。ガレアジ骨折の病態の説明ができる。
4		前腕部損傷 4	尺骨骨幹部骨折の概説、発生機序、症状、合併症、治療法が説明できる。
5		前腕部損傷 5	モンテギア骨折の概説、分類、治療法、後遺症の説明ができる。
6		前腕部損傷 6	橈尺両骨骨幹部骨折の概説、発生機序、転位、症状、合併症、の説明ができる。
7		前腕部損傷 7	橈尺両骨骨幹部骨折の治療法、後遺症、難治理由の説明ができる。
8		前腕部損傷 8	前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群の概説、症状、治療法の説明ができる。
9		前腕部損傷 9	正中神経障害（回内筋症候群）（前骨間神経麻痺）の概説、症状、治療法の説明ができる。
10		前腕部損傷 10	橈骨神経麻痺（後骨間神経麻痺）尺骨神経障害（肘部管症候群）の概説、発生機序、症状、治療法の説明ができる。
11		手関節部の損傷 1	橈骨遠位端部骨折の分類の説明ができる。
12		手関節部の損傷 2	コーレス骨折の概説、発生機序、転位、変形、整復法、固定法、後療法、合併症の説明ができる。
13		手関節部の損傷 3	スミス骨折の概説、転位、発生機序、症状の説明ができる。
14		手関節部の損傷 4	バートン骨折、ショウファー骨折、遠位骨端線離開の概説、特徴の説明ができる。
15		試験解説	前期試験解説
16			

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 4 Clinical Judo Therapy Advanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	上肢の骨折・脱臼および軟部組織損傷を学び、柔道整復師の役割について考える。
到達目標	1. 疾患概念を説明できる。 2. 各損傷におけるポイントを説明できる。 3. 手関節部の解剖と機能について説明できる。

準備学習 時間外学習	手関節部の解剖に対して不安であれば予習をしておくこと。 授業中に実施する復習プリントで随時振り返りをしておくこと。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第6版（南江堂） / PC / 配布資料
留意点 備 考	パワーポイントを使用するため色覚異常など配慮が必要であれば申し出ること。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	手根骨骨折 1	舟状骨骨折①【解剖・概要・発生機序・分類】 舟状骨の解剖学的特徴について説明できる。	
2	手根骨骨折 2	舟状骨骨折②【症状・治療】 本症の症状、難治理由を説明できる。	
3	手根骨骨折 3	有鉤骨骨折【受傷機序・症状】 有鉤骨鉤骨折の受傷機序を説明し、鉤部を触知することができる。	
4	手根骨骨折 4	他手根骨骨折【概要・分類・症状・治療】 各手根骨骨折における特徴を挙げることができる。	
5	手根骨骨折 5	月状骨骨折【受傷機序・症状】 本症と月状骨脱臼との違いを説明できる。	
6	手関節脱臼 1	橈骨手根関節・遠位橈尺関節脱臼【分類・受傷機序・症状】 本症の分類と受傷機序を関連づけて説明できる。	
7	手関節脱臼 2	月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼【概要・受傷機序・症状】 本症の症状について説明できる。	
8	手関節軟部組織損傷 1	TFCC損傷【解剖・分類・症状・治療】 本症の疾患概念を説明できる。	
9	手関節軟部組織損傷 2	手関節部腱鞘炎【解剖・症状・治療】 ドケルバン病の疾患概念を説明できる。	
10	手関節軟部組織損傷 3	骨関節疾患【概要・症状・分類・治療】 キーンベック病、マーデルング変形の疾患概念を説明できる。	
11	末梢神経障害 1	正中神経障害①【解剖・分類・概要】 正中神経障害を分類することができる。	
12	末梢神経障害 2	正中神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 手根管症候群の症状を説明することができる。	
13	末梢神経障害 3	尺骨神経障害①【解剖・分類・概要】 尺骨神経障害を分類することができる。	
14	末梢神経障害 4	尺骨神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 ギヨン管症候群の症状を説明することができる。	
15	総復習	前期範囲の内容補填および復習	

科目名 【英】	柔道整復応用講座 1 Course of Judo Therapy Advanced 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	角田 晃啓	実務者経歴	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施
------	-------	-------	--

学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について学習する。
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靱帯、筋について説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		運動学 1	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解し、それを説明できる。
2		運動学 2	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について理解し、各関節での実際を想起できる。
3		運動学 3	運動感覚・反射と随意運動 感覚の種類と反射、随意運動について理解し、それを説明できる。
4		運動学 4	四肢と体幹の運動 1【上肢帯・肩関節】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
5		運動学 5	四肢と体幹の運動 2【肘関節・前腕】 肘関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
6		運動学 6	四肢と体幹の運動 3【手関節・手】 手関節・手の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
7		運動学 7	四肢と体幹の運動 4【股関節】 股関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
8		運動学 8	四肢と体幹の運動 5【膝関節】 膝関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
9		運動学 9	四肢と体幹の運動 6【足関節・足部】 足関節・足部の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
10		運動学 10	四肢と体幹の運動 7【体幹・脊柱・顔面・頭部 1】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。
11		運動学 11	四肢と体幹の運動 8【体幹・脊柱・顔面・頭部 2】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。
12		運動学 12	姿勢 基本的な立位姿勢について理解し、ヒトの姿勢の観察を通じてこれを想起できる。
13		運動学 13	歩行 歩行についての基本的な事項を理解し、ヒトの歩行の観察を通じてこれを想起できる。
14		運動学 14	運動発達 運動発達について理解し、これを想起できる。
15		運動学 15	運動学習 運動学習の方法・過程について理解し、これを想起できる。

科目名 【英】	柔道整復応用講座 4 Couse of Judo Therapy Advanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	骨・関節・筋・靱帯・脊髄・神経の解剖・生理を理解した上で脊柱・骨盤・四肢（運動器）の外傷・障害、先天異常、腫瘍、変性疾患、骨系統疾患の診断法・治療法・後遺症を学ぶ。
到達目標	整形外科を通して、人体の解剖生理を理解し運動器全体の検査法、治療法、後遺症を熟知し、柔道整復学による治療が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「整形外科学」（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器の基礎知識②	筋 靱帯 腱 の基礎知識、運動器の科学 の 理解 と 習得	
2	整形外科診察法②	跛行 拘縮・強直 知覚 反射 の 理解 と 習得	
3	整形外科検査法②	電気生理学的検査・関節鏡検査・超音波検査の診方 の 理解 と 習得	
4	整形外科の治療法②	観血的治療 の 意味 と 意義 と 方法 の 理解 と 習得	
5	骨・関節損傷総論②	小児骨折・開放骨折・疲労骨折・病的骨折 の 診断・治療 の 理解 と 習得	
6	スポーツ整形外科総論	スポーツ整形外科 の 役割 と 位置づけ の 理解 と 習得	
7	感染性疾患②	ブロディー骨膿瘍・骨関節結核・化膿性関節炎 の 理解 と 習得	
8	骨および軟部腫瘍②	良性骨腫瘍の 基礎 診断 治療法の 理解 と 習得	
9	変形性関節症	変形性関節症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
10	結晶誘発性関節炎	結晶誘発性関節炎の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
11	血清反応陰性脊椎関節症	血清反応陰性脊椎関節症の 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
12	骨粗鬆症②	骨粗鬆症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
13	先天性の骨・軟骨疾患②	軟骨無形成性症・モルキオ病・骨形成不全症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
14	骨端症①	骨端症の総論・ペルテス病・オスグッド病・ブランド病の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
15	四肢循環障害	末梢動脈・静脈疾患の 病態 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	

科目名 【英】	柔道整復応用講座 5 Course of Judo Therapy Advanced 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する
到達目標	国家試験の正答率60%を目指す

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	病理学概論 改定版3版（医歯薬出版）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備 考	授業中静粛にする

成績評価	試験100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	I. 病理概論・病因・国家試験問題解説・II. 先天異常⇔後天性疾患-2	授業内容（病理解剖と通常・特殊・免疫染色）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
2	III. 循環障害-2	授業内容（血液やリンパ循環の阻害が原因の虚血・血栓・浮腫）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
3	IV. 細胞障害-2	授業内容（細胞の退行性病変・萎縮・変性・壊死が原因の炎症系と免疫系への影響）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
4	V. 増殖と修復-2	授業内容（組織の回復機構と回復しない増幅性と特殊性炎症）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
5	VI. 炎症-2	授業内容（炎症関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
6	VI. 炎症-4	授業内容（炎症細胞の修復の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
7	VII. 免疫-2	授業内容（免疫関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
8	VII. 免疫-4	授業内容（免疫細胞の炎症の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
9	VIII. 腫瘍-2	授業内容（良性腫瘍と悪性腫瘍の差）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
10	I. 病因, II. 先天異常⇔後天性疾患-4	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
11	VI. 炎症-6	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
12	VII. 免疫-6	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
13	VIII. 腫瘍-4	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
14	総まとめ-2	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
15	総まとめ-4、試験	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	

科目名 【英】	整形外科学 Orthopedic Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	骨・関節・筋・靱帯・脊髄・神経の解剖・生理を理解した上で脊柱・骨盤・四肢（運動器）の外傷・障害、先天異常、腫瘍、変性疾患、骨系統疾患の診断法・治療法・後遺症を学ぶ。
到達目標	整形外科学を通して、人体の解剖生理を理解し運動器全体の検査法、治療法、後遺症を熟知し、柔道整復学による治療が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「整形外科学」（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器の基礎知識①	骨 関節 の基礎知識 の 理解 と 習得	
2	整形外科診察法①	姿勢 四肢・体幹 上下肢長 の診方 計測法の 理解 と 習得	
3	整形外科検査法①	画像検査 骨密度検査 の 原理 と 診方 の 理解 と 習得	
4	整形外科的治療法①	保存療法 の 意味 と 意義 と 方法 の 理解 と 習得	
5	骨・関節損傷総論①	骨折 の 定義・分類・症状・診断・治癒・治療 の 理解 と 習得	
6	骨・関節損傷総論③	骨折 の 合併症 関節損傷 の 理解 と 習得	
7	感染性疾患①	感染の基礎 急性化膿性骨髄炎 慢性骨髄炎 の 理解 と 習得	
8	骨および軟部腫瘍①	悪性骨腫瘍の 基礎 診断 治療法の 理解 と 習得	
9	骨および軟部腫瘍③	悪性・良性軟部腫瘍の 基礎 診断 治療法の 理解 と 習得	
10	関節リウマチ	関節リウマチの 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
11	その他の骨関節疾患	血友病性関節症・離断性骨軟骨炎・関節遊離体の症状 病態 治療の 理解 と 習得	
12	骨粗鬆症①	骨粗鬆症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
13	先天性の骨・軟骨疾患①	遺伝形式基礎 と 先天性骨系統疾患の総論 についての 理解 と 習得	
14	先天性の骨・軟骨疾患③	大理石病・マルファン症候群・多発性神経線維腫症・くる病・巨人症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
15	骨端症②	テストの解説及び セーバー病・キーンベック病・ケーラー病の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習 1 Judo Therapy Conditioning Skill Practice 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月	時 限	7

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復師において必要となる基礎包帯（下肢包帯、冠名包帯、肋骨骨折の固定法など）を学ぶ。
到達目標	実技試験までにすべての包帯法の走行を覚え、手早く綺麗に巻けるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	4.5.6裂包帯、さらし、三角巾、厚紙副子（学校で準備）、配布プリント
留意点 備 考	包帯用ファイルを持参し、挟んでいく。

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		足部の包帯 1	【足関節 上行麦穂帯】 上行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。
2		足部の包帯 2	【足関節 下行麦穂帯】 下行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。
3		足部の包帯 3	【鍔帯】 鍔帯の走行を覚え、巻くことができる。
4		足部の包帯 4	【踵離開亀甲帯 + 三節帯】 離開亀甲帯の圧のかけ方を知る
5		足部の包帯 5	【足部の復習】 各包帯法の走行を混乱せずに巻くことができる
6		下腿の包帯	【下腿の包帯】 下腿包帯の走行を覚え、巻くことができる。
7		膝部の包帯 1	【膝関節離開亀甲帯】 膝関節離開亀甲帯を覚え、巻くことができる。
8		膝部の包帯 2	【膝関節集合亀甲帯】 膝関節集合亀甲帯を覚え、巻くことができる。
9		冠名包帯 1	【ヴェルポー包帯】 ヴェルポー包帯を覚え、巻くことができる。
10		冠名包帯 2	【ジュール包帯】 ジュール包帯を覚え、巻くことができる。
11		冠名包帯 3	【デゾー包帯（簡易ver.）】 デゾー包帯（簡易ver.）を覚え、巻くことができる。
12		冠名包帯 4	【冠名包帯の復習】 各包帯法の走行を混乱せずに巻くことができる
13		骨折固定	【肋骨骨折 固定法（さらし・厚紙副子）】 肋骨骨折 固定法を覚え、巻くことができる。
14		総復習	【試験に向けての総復習】 実技試験に合格できるようになる。
15		固定法の組合せ	【肩関節上行麦穂帯 + 三角巾】 3年次に向けて固定法の組合せを知り、巻くことができる。

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜	時 限	7

担当教員	山田靖典	実務者経験	2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務
------	------	-------	-----------------------

学習内容	ベッドサイドでのペアストレッチング。ストレッチングにおける代償運動とリスクを理解する
到達目標	協会認定ストレッチングトレーナーパートナー資格取得

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学
使用教材	協会テキスト
留意点 備 考	出席率100%必要

成績評価	協会筆記・実技試験・
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		ストレッチング理論	ストレッチング理論の理解
2		大腿四頭筋のストレッチング	大腿四頭筋のストレッチングが行えるようになる。オリエンテーションの理解
3		ハムストリングスのストレッチ	ハムストリングスのストレッチが行えるようになる。
4		内転筋・下腿三頭筋のストレッチング	内転筋・下腿三頭筋のストレッチングが行えるようになる。
5		腸腰筋・殿筋のストレッチング	腸腰筋・殿筋のストレッチングが行えるようになる。
6		胸筋・広背筋のストレッチング	胸筋・広背筋のストレッチングが行えるようになる。
7		上肢アライメントから考察するストレッチング	上位交差性症候群、筋連結の理解
8		上腕二頭・三頭筋、ローテーターカフのストレッチング	上腕二頭・三頭筋、ローテーターカフのストレッチングが行えるようになる。
9		コンプレッションストレッチング	コンプレッションストレッチングの理解
10		下肢アライメントから考察するストレッチング	下位交差性症候群、運動連鎖
11		実技試験練習	実技試験練習
12		自重トレーニング	スタビライゼーションの理解
13		実技試験練習	実技試験練習
14		実技試験練習、筆記試験	筆記試験の合格
15		実技試験	実技試験の合格
16			

科目名 【英】	柔道整復実技 1 Judo Therapy Practical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火・金	時 限	1.・2・7

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	医療面接・徒手検査法・反射検査・感覚検査・運動機能検査を学ぶ
到達目標	臨床実習前教育で身につけておく基本的臨床能力を身につける

準備学習 時間外学習	一般臨床医学の検査法・リハビリテーション医学MMT、ROMを参照
使用教材	実技マニュアル・一般臨床医学
留意点 備 考	実技なのでKCで白Tシャツ・短パン

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		身体触診法	四肢長・四肢周径・MMT・ROM行うことができる。
2		体表解剖	身体各部のランドマーク・大結節・結節間溝・足背動脈・感覚検査を行うことができる。
3		徒手検査 1	ジャクソンテスト・スパーリングテスト・上肢深部健反射・上肢病的反射を行うことができる。
4		徒手検査 2	SLRテスト、FNSテスト、ケンプ徴候、下肢深部健反射、下肢病的反射を行うことができる。
5		徒手検査 3	運動機能検査、（バレー徴候、指鼻試験、ロンベルグ試験）を行うことができる。
6		徒手検査 4	腱板損傷検査法（ペインフルアーク、インピンジメント、ドロップアームテスト）を行うことができる。
7		徒手検査 5	上腕二頭筋検査法（ヤーガソン・スピードテスト・エルボーフレクションテスト）を行うことができる。
8		徒手検査 6	大腿四頭筋検査法（背臥位、座位、腹臥位）を行うことができる。
9		徒手検査 7	ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。
10		徒手検査 8	膝関節検査法 1（側方動揺性、アプレー牽引）を行うことができる
11		徒手検査 9	膝関節検査法 2（前方引き出し、ラックマン、Nーテスト）を行うことができる。
12		徒手検査 10	膝関節検査法 3（マックマレーテスト、アプレー圧迫、ワトソンジョーンズ）を行うことができる。
13		徒手検査 11	下腿三頭筋（誘発テスト、トンブソンテスト）を行うことができる。
14		徒手検査 12	足関節（前方引き出し、内反ストレステスト）を行うことができる。
15		徒手検査 13	前期振り返り・総復習

科目名 【英】	柔道整復実技 2 Judo Therapy Practical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	-------------------------------------

学習内容	肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、顎関節脱臼の整復をマスターする
到達目標	2年生の進級実技合格

準備学習 時間外学習	柔道整復実技教科書 第2版も参照
使用教材	紙バンなど
留意点 備 考	実技なのでやすまないように

成績評価	実技試験評価 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肩関節前方脱臼	コッヘル法で整復できるようになる。
2		肩関節前方脱臼	コッヘル法、ヒポクラテス法の違いを知り整復できるようになる。
3		肩関節前方脱臼	ヒポクラテス法で整復できるようになる。
4		肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
5		顎関節前方脱臼	口内法・口外法で整復できるようになる。
6		肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼が整復できるようになる。
7		肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼の固定ができるようになる。
8		肩関節前方脱臼	コッヘル法・ヒポクラテス法それぞれで整復できるようになる。
9		肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
10		顎関節前方脱臼	口内法・口外法で整復できるようになる。
11		肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼の整復・固定ができるようになる。
12		総復習	全ての整復法、固定法ができるようになる。
13		確認試験	全ての整復法、固定法ができるようになる。
14		総復習	全ての整復法、固定法ができるようになる。
15		試験の振り返り	全ての項目の振り返りを行い、整復法、固定法をできるようになる。

科目名 【英】	病理学概論 Introduction of Pathology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教4年間
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する
到達目標	国家試験の正答率60%を目指す

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	病理学概論 改定版3版（医歯薬出版）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備 考	授業中静粛にする

成績評価	試験100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	I. 病理概論・病因・国家試験問題解説・II. 先天異常⇨後天性疾患-1	授業内容（病理解剖と通常・特殊・免疫染色）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
2	III. 循環障害-1	授業内容（血液やリンパ循環の阻害が原因の虚血・血栓・浮腫）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
3	IV. 細胞障害-1	授業内容（細胞の退行性病変・萎縮・変性・壊死が原因の炎症系と免疫系への影響）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
4	V. 増殖と修復-1	授業内容（組織の回復機構と回復しない増幅性と特殊性炎症）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
5	VI. 炎症-1	授業内容（炎症関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
6	VI. 炎症-3	授業内容（炎症細胞の修復の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
7	VII. 免疫-1	授業内容（免疫関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
8	VII. 免疫-3	授業内容（免疫細胞の炎症の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
9	VIII. 腫瘍-1	授業内容（良性腫瘍と悪性腫瘍の差）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
10	I. 病因・II. 先天異常⇨後天性疾患-2	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
11	VI. 炎症-5	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
12	VII. 免疫-5	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
13	VIII. 腫瘍-3	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
14	総まとめ-1	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
15	総まとめ-3、試験	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	

科目名 【英】	臨床実習 2 Clinical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	6.7

担当教員	竹田 英樹／岩田 早紀	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。
------	-------------	-------	---

学習内容	医療者が臨床に必要なマナーや倫理、診察法、症例レポートの作成方法を学ぶ。 医療面接や接遇の実技を行う。
到達目標	医療人としての身嗜みを整えや接遇としての患者対応をすることができる。 一般的な内科疾患、整形外科疾患を視診から判断することができる。 外来患者の症例記録から症例レポートを作成することができる。

準備学習 時間外学習	1年次の臨床実習の復習が望ましい
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや一版臨床医学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		ガイダンス	臨床実習の意義、目的、評価を学ぶ。 適切な身だしなみを実践できる。90分
1		医療倫理	インフォームド・コンセント、守秘義務、医療過誤、衛生観念（スタンダード・プリクッション）を学ぶ。 インフォームドコンセントなど学んだことを説明できる。50分
2		診察法 1	医療面接、視診、聴診、打診、触診の意義を学ぶ。 医療面接で重要なこと、視診・聴診・触診での注意事項を答えることができる。90分
2		診察法 2	医療面接の意義、目的、方法を学ぶ。 情報収集、良好な医療従事者-患者関係を説明できる。 50分
3		診察法 3	医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。 適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀を実践し、病歴情報を収集することができる。90分
3		診察法 4	視診・聴診・打診・触診の方法を学ぶ。 診察上の内科病変、整形外科的病変を答えることができる。50分
4		診察法 5	接骨院で使用する一般的な物理療法器機の扱い方を学ぶ。 一般的な物理療法器機の禁忌症や注意事項を答えることができる。90分
4		マナー研修 1	一般的なビジネスマナーを学ぶ。 服装と身だしなみのマナー、お辞儀、 会話、言葉遣いのマナーや笑顔とあいさつを行うことができる。50分
5		マナー研修 2	医療人としてのマナーを学ぶ。 医療人としての心構え、職場のマナー、患者対応の注意事項を答えることができる。90分
5		外部臨床実習 ガイダンス	外部臨床実習の意義、目的、評価方法を学ぶ。 外部臨床実習の到達目標を説明できる。50分
6		ロールプレイング 1	症例記録を作成する際の注意事項を学ぶ。 ロールプレイングから症例記録を作成することができる。90分
6		ロールプレイング 2	症例レポートを作成する際の注意事項を学ぶ。 症例記録から症例レポートを作成することができる。50分
7		ロールプレイング 3	一般的な整骨院業務を学ぶ。 挨拶・事前準備（ベッドメイク、掃除など）・事後片付け（掃除、翌施術日の準備など）・介助法（寝かせ方、座らせ方、起こし方、立たせ方など）を実施することができる。90分
7		振り返り 1	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 医療従事者としての自覚や感想、反省を述べることができる。50分
8		振り返り 2	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 症例レポートの発表を行うことができる。90分

8		指導法 1	腰痛体操を通じて、患者対応を学び指導することができるようになる。50分
9		指導法 2	肩こり体操を通じて、患者対応を学び指導することができるようになる。90分
9		検査法 1	患者対応の注意事項を確認する。 上肢の検査法を実施し評価することができる。50分
10		検査法 2	患者対応の注意事項を確認する。 上肢の検査法を実施し評価することができる。90分
10		検査法 3	患者対応の注意事項を確認する。 下肢の検査法を実施し評価することができる。50分
11		検査法 4	患者対応の注意事項を確認する。 下肢の検査法を実施し評価することができる。90分
11		リフレクソロジー1	リフレクソロジーを理解し、実施することができる。50分
12		リフレクソロジー2	リフレクソロジーを理解し、実施することができる。90分
12		リフレクソロジー3	リフレクソロジーを理解し、実施することができる。50分
13		関節可動域 (ROM) 1	上肢の関節可動域測定、評価ができる。90分
13		関節可動域 (ROM) 2	下肢の関節可動域測定、評価ができる。50分
14		MMT 1	患者に対してMMTを実施し、評価することができる。90分
14		MMT 2	患者に対してMMTを実施し、評価することができる。50分
15		MMT 3	患者に対してMMTを実施し、評価することができる。90分
15		MMT 4	患者に対してMMTを実施し、評価することができる。50分

科目名 【英】	解剖生理学 1 Anatomy and Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	池 宏海	実務者経験	大阪歯科大学解剖学講座で大学院・助手・助教。講師として22年間従事。その後、池歯科医院を開設し地域歯科医療に従事ならびに専門学校の非常勤講師として解剖学・生理学の講義に従事し、現在に至る。
------	------	-------	--

学習内容	医療に最も必要不可欠な基礎学問である解剖学・生理学を学ぶ。
到達目標	人体を形態的・機能的に追究し臨床に繋がられるようになる。 柔道整復師の国家試験に向かって知識レベルを上げる。

準備学習 時間外学習	1年生で学んだ解剖学・生理学の教科書を再度読み理解度を再認識する。国試の過去問題を多く解く。
使用教材	解剖学 生理学 （医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験のみで100%評価
------	---------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/13	内分泌系 内分泌腺の形態と機能（1）	内分泌腺と外分泌腺との比較の説明ができる。下垂体の前葉・後葉から分泌されるホルモンを説明できる。神経分泌・下垂体門脈の特徴を説明できる。
2	4/20	内分泌系 内分泌腺の形態と機能（2）	松果体の形態と機能を説明できる。甲状腺と上皮小体を説明できる。
3	4/27	内分泌系 内分泌腺の形態と機能（3）	副腎・膵臓・精巣・卵巣から分泌されるホルモンを説明できる。
4	5/11	神経系 神経系の基礎	神経系の区分を説明できる。脳室・脳脊髄液を説明できる。
5	5/25	神経系 中枢神経 脳	大脳（皮質・髄質）、間脳（視床・視床下部）について説明できる。
6	6/1	神経系 中枢神経 脳	脳幹（中脳・橋・延髄）・小脳について説明できる。
7	6/8	神経系 脳・脊髄	伝導路・脳脊髄神経について説明できる。。
8	6/15	神経系 自律神経	交感神経・副交感神経について説明できる。。
9	6/22	脈管系 総論 心臓	弁・心膜・伝導系について説明できる。
10	7/6	脈管系 動脈系	大動脈と各部の動脈について説明できる。
11	7/13	脈管系 静脈系・リンパ系・ 胎児循環	大静脈と各部の静脈を説明できる。胎児循環の特徴を説明できる。リンパ系（本幹、リンパ節）を説明できる。
12	7/20	内臓系 消化器系（1）	口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肛門について説明できる。
13	8/31	内臓系 消化器系（2）	肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜について説明できる。
14	9/7	呼吸器系（1）	ガス交換、外鼻・鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭について説明できる。
15	9/21	呼吸器系（2）	気管・気管支・肺・胸膜について説明できる。

科目名 【英】	運動学 Kinesiology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	角田晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施
------	------	-------	--

学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靱帯、筋について説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		運動学 1	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解できる。
2		運動学 2	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について理解できる。
3		運動学 3	運動感覚・反射と随意運動 感覚の種類と反射、随意運動について理解できる。
4		運動学 4	四肢と体幹の運動 1【上肢帯・肩関節】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解できる。
5		運動学 5	四肢と体幹の運動 2【肘関節・前腕】 肘関節の構造・機能について理解できる。
6		運動学 6	四肢と体幹の運動 3【手関節・手】 手関節・手の構造・機能について理解できる。
7		運動学 7	四肢と体幹の運動 4【股関節】 股関節の構造・機能について理解できる。
8		運動学 8	四肢と体幹の運動 5【膝関節】 膝関節の構造・機能について理解できる。
9		運動学 9	四肢と体幹の運動 6【足関節・足部】 足関節・足部の構造・機能について理解できる。
10		運動学 10	四肢と体幹の運動 7【体幹・脊柱・顔面・頭部 1】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる。
11		運動学 11	四肢と体幹の運動 8【体幹・脊柱・顔面・頭部 2】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる。
12		運動学 12	姿勢 基本的な立位姿勢について理解できる。
13		運動学 13	歩行 歩行についての基本的な事項を理解できる。
14		運動学 14	運動発達 運動発達について理解できる。
15		運動学 15	運動学習 運動学習の方法・過程について理解できる。

科目名 【英】	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月	時 限	5

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。 2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の基礎的な内容を理解する。生活機能を評価し、改善するための着眼を養う。
到達目標	リハビリテーションの理念を理解し説明することが出来る。医学的リハビリテーションにおける多職種協働によるアプローチを実践するための、専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト100%
------	-----------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		リハビリテーションの概念・歴史	リハビリテーションの概念・歴史 リハビリテーションの理念を説明することができるようになる
2		障害の捉え方・ICIDH	国際障害分類 ICIDHでの障害分類を説明できる。簡単な障害をICIDHの障害構造に分類できるようになる
3		障害と生活機能ICF	国際生活機能分類 ICFに基づく生活機能の説明ができる。背景因子への介入方法について説明できるようになる
4		リハビリテーションでの多職種連携	リハビリテーションに関わる職種・多職種連携 リハビリテーションに関わる職種を説明することができるようになる
5		評価学 1	リハビリテーションにおける評価 リハビリテーションで用いる評価法を理解できるようになる
6		障害学と治療学 1	関節機能障害とその治療 可動域制限の原因の鑑別診断とその治療手技について理解できるようになる
7		障害学と治療学 2	筋力低下・神経障害とその治療 筋力・神経機能の評価から治療までの過程を理解できるようになる
8		障害学と治療学 3	各種治療技術の紹介（身体作業療法・精神科作業療法） 作業療法について説明できるようになる
9		障害学と治療学 4	各種治療技術の紹介（言語障害・高次脳機能障害ととその治療） 言語障害、高次脳機能障害について理解し説明できるようになる
10		高齢者 1	廃用症候群 廃用症候群の各症候を理解し、その対処法を説明できるようになる
11		高齢者 2	医療制度・介護保険制度 高齢者に関連する社会制度で実践されるリハビリテーションについて理解できるようになる
12		脳血管障害 1	脳血管障害 脳血管障害の急性期のリハビリテーションを理解できるようになる
13		脳血管障害 2	脳血管障害 脳血管障害の回復期・維持期のリハビリテーションを理解できるようになる
14		パーキンソン病	パーキンソン病・神経疾患 パーキンソン病等のリハビリテーションについて理解できるようになる
15		試験解説・まとめ	前期試験を解説 前期で学習した範囲が説明できるようになる
16			

科目名 【英】	衛生学・公衆衛生学 Hygiene and Public Health			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する。
到達目標	国家試験の正答率60%を採ることができるようになる。

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	衛生学・公衆衛生学 改定版6版（南江堂）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備 考	授業中静粛にする

成績評価	筆記試験 100%
------	-----------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1	1. 衛生学・公衆衛生学 の歴史と公衆衛生活動	心身の健康の保全を研究する学問と理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
2	2. 健康の概念	WHOにおける健康を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
3	3. 疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
4	4. 感染症の予防	感染と発病を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
5	5. 消毒	消毒の意義を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
6	6. 環境衛生	環境問題を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
7	7. 生活環境・食品衛生活動	水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
8	8. 母子保健	ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
9	9. 学校保健	健康生活能力の発達を図るために学校で行われる諸活動を学校保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
10	10. 産業保健	働く人の病気を予防し、健康を保持増進するための学問と活動が産業保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
11	11. 成人・高齢者保健	老年人口の増加と生活習慣予防対策を理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
12	12. 精神保健、13. 地域保険と国際保健	精神障害の予防が精神保健と理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。地域および国際を対象としたものが地域保険および国際保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
13	14. 衛生行政と保健医療の制度、15. 医療の倫理と安全の確保	公衆衛生の定義の中でコミュニティーの組織学的な努力を通じての部分具体化したものと理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。道徳的規範を特定の医療集団に適用させたものが倫理と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
14	16. 疫学	人間集団における疾病の分布とその発生原因を研究する科学を疫学と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
15	試験対策	試験対策問題の解答と解説。正答率60%を採ることができるようになる。	

科目名 【英】	基礎鑑別学 Basic Differential diagnosis			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	高橋秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	------	-------	--

学習内容	柔道整復師がチーム医療の一員として活躍するために必要な事は、他の職種とスムーズな患者情報の共有と柔道整復師の対応できる疾患の速やかな病態把握である。基礎鑑別学ではこれらの課題を遂行するための基礎知識を学ぶ。特に重篤な後遺症をを招くような注意すべき疾患の兆候に重点を置いて解説する
到達目標	患者の兆候から今後起こりえる病態を考察できるようになる 医療機関との連携が必要であると判断した際に、スムーズな患者情報の提供ができるようになる

準備学習 時間外学習	人体の構造である解剖学 柔道整復術のに関連の深い整形外科の知識を整理しておくこと
使用教材	全国柔道整復学校協会監修 「医療の中の柔道整復」 有沢 修 著
留意点 備 考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		鑑別学1	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
2		鑑別学2	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
3		鑑別学3	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
4		鑑別学4	血流障害を伴う損傷 血流障害の兆候を理解し、緊急時の対応が出来るようになる
5		鑑別学5	末梢神経障害を伴う損傷 神経障害の発生機序を理解し、神経障害特有の病態から損傷されている神経の判断が出来る
6		鑑別学6	脱臼骨折 脱臼骨折の状態とその予後について理解する。後遺症の残らない対応の判断が出来る
7		鑑別学7	外出血を伴う損傷 柔道整復術の禁忌症の可能性を念頭に置いた対応が出来るようになる
8		鑑別学8	病的骨折及び脱臼 骨折、脱臼の対応とともに契機となる先行病変について理解し説明できるようになる
9		鑑別学9	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
10		鑑別学10	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
11		鑑別学11	脊髄症状のある損傷 脊髄損傷の症状を重篤化しない対応方法と脊髄損傷を引き起こす外傷について説明できる
12		鑑別学12	呼吸運動障害を伴う損傷 呼吸運動障害を呈する患者の対応と医療機関との連携をスムーズに行うことが出来る
13		鑑別学13	内蔵損傷の合併が疑われる損傷 内蔵損傷の兆候と対応方法を理解しその概要を説明できるようになる
14		鑑別学14	高エネルギー外傷 身体に高エネルギーの外力が加わった際の反応と組織損傷について説明できるようになる
15		鑑別学15	全体のまとめと総復習

科目名 【英】	外傷予防理論実習 1 Injury Prevention Conditioning Practices 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	田中 精一	実務者経験	2013年3月より通所介護施設開設。高齢者の転倒による外傷予防を含めた日常生活機能の維持・向上への機能訓練指導をおこなう。
------	-------	-------	---

学習内容	高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に転倒を含めた外傷の予防、日常生活能力の維持・向上にむけた介護予防等は機能訓練指導員の大きな責務です。柔道整復師はその一員として位置づけられています。今後益々その担い手として介護分野への参画が期待されています。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事。また、医療分野への就職あるいは独自での開業だけに留まらず、介護分野への参入で将来の生計の幅の広がりを感じていただく事を目的とします。
到達目標	機能訓練指導員として介護保険制度の知識と技術を習得。

準備学習 時間外学習	授業計画を確認し、配布資料・講義内容をもとに予習・復習を行ってください。聞き逃しや疑問点がありましたら質問に来てください。
使用教材	教科書『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	配布したプリントは整理し、授業の度に持参して受講するのが望ましい。

成績評価	期末筆記試験60% + 実技テスト40%で評価。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	(座) 柔整師と介護保険 (演) コグニサイズ I	(座学) 介護保険サービスにおける柔整師の必要性の理解。 (演習) 認知症予防体操の体験と理解。	
2	(座) 発達と老化の理解 I (演) 嘔吐物の対処方法	(座学) サルコペニアとフレイルの違い。 (演習) 嘔吐物対処の理解。	
3	(座) 発達と老化の理解 II (演) 心肺蘇生	(座学) 健康寿命の理解 (演習) 心肺蘇生法への関心	
4	(座) 介護保険制度 (演) 二人組 認定調査	(座学) 介護保険制度の理解 (演習) 認定調査内容の理解と調査体験。	
5	(座) 介護区分とサービス (演) 筋肉作用	(座学) 各種介護サービスの理解 (演習) 高齢者の機能訓練に対する考え方と指導方法習得	
6	(座) 介護の過程 I (演) 転倒予防と歩行	(座学) 介護支援のための情報分析の仕方の理解。 (演習) 高齢者への歩行指導方法習得	
7	(演) 介護の過程 II 居宅介護計画(原案)作成	(演習) 介護支援のための居宅介護計画の作成能力習得。	
8	(演) 介護の過程 III 介護計画のグループ作成	(演習) 意見交換を交えたグループ(班)としての居宅介護計画の作成能力習得とその体験。	
9	(演) 介護の過程 IV 担当者会議とグループ検討	(演習) 担当役設定の上での疑似体験による介護支援者とその家族に対する支援計画の説明力と対応力の習得。	
10	(座) 機能訓練指導 (演) 機能訓練計画作成	(座学) 機能訓練指導方法の理解。 (演習) 個別機能訓練計画作成力	
11	(座) 認知症の理解 (演) 身体能力測定と評価	(座学) 認知症患者の理解 (演習) 機能訓練身体能力測定方法と評価方法の習得	
12	(演) ロコモティブシンドロームとテストと評価	(演習) ロコモテスト方法と評価方法の習得	
13	(座) 高齢者介護と I C F (演) 機能訓練試験対象	(演習) 機能訓練の運動と要点の習得。(実技試験合格ラインまで)	
14	前半 50分 筆記試験 後半 (座学) 高齢者の障害	前半 筆記試験 後半 (座学) 高齢者の関節障害の理解	
15	前半 実技試験 後半 (座学) まとめ	前半 実技試験 後半 (座学) 介護保険制度における柔整師の役割の理解	

科目名 【英】	柔道整復応用講座 3 Course of Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	-------	-------	--

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を100%とする。
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		呼吸器疾患	呼吸器総論を復習し各疾患への理解を深める
2		循環器疾患1	循環器総論と各論のつながりを理解する
3		消化器疾患	消化器の総論を復習し各疾患への理解を深める
4		代謝疾患	代謝の総論を復習し各疾患への理解を深める
5		内分泌疾患1	内分泌の総論を復習し各疾患への理解を深める
6		内分泌疾患2	内分泌総論と各論のつながりを理解する
7		血液・造血管器疾患	血液・造血管器総論と各論のつながりを理解する
8		腎・尿路疾患1	腎・尿路の総論を復習し各疾患への理解を深める
9		腎・尿路疾患2	腎・尿路と各論のつながりを理解する
10		神経疾患1	神経の総論を復習し各疾患への理解を深める
11		神経疾患2	神経総論と各論のつながりを理解する
12		感染症	感染症総論を復習し各疾患への理解を深める
13		リウマチ・膠原病・アレルギー	リウマチ・膠原病・アレルギー総論を復習し各疾患への理解を深める
14		環境要因による疾患	環境要因による疾患を解剖生理を通じ理解する
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	柔道整復応用講座 6 Course of Judo Therapy Advanced 6			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	外科学を学び柔道整復の臨床に応用できるように基礎知識を身につける。
到達目標	前期範囲を含めて自ら考えて説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	授業同様、自学習において自ら考える力を養うことを望む
使用教材	外科学概論 改訂第4版 南江堂
留意点 備 考	50分授業として実施する。

成績評価	期末試験で100%評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		外科学総論 1	損傷と創傷 損傷の分類を説明できる
2		外科学総論 2	熱傷、炎症、腫瘍 熱傷の分類を説明できる
3		外科学総論 3	消毒、麻酔、手術 消毒薬と特徴について説明できる
4		外科学総論 4	ショック、輸液、心肺蘇生 ショックの定義を説明できる
5		外科学総論 5	移植、出血と止血 移植の用語を説明できる
6		外科学総論 6	総論まとめ 総論の要点をまとめ、説明できる
7		外科学総論 7	総論テスト（中間テスト） 中間試験で及第点がとれる
8		外科学各論 1	脳神経外科疾患 主な脳神経疾患の種類を挙げることができる
9		外科学各論 2	甲状腺、胸壁・呼吸器疾患 胸部損傷での注意点を説明することができる
10		外科学各論 3	心臓・脈管疾患 ASO, TAOの相違点を説明できる
11		外科学各論 4	乳腺疾患、腹部疾患 腹部疾患の症状を説明できる
12		外科学各論 5	腹部疾患 腹部疾患における注意点を説明できる
13		外科学各論 6	各論まとめ 各論の要点をまとめ、説明できる
14		外科学各論 7	外科学まとめ、受験の心構え 医療者としての心構えを示すことができる
15		学年末まとめ	試験実習 1 模擬試験で及第点がとることができる

科目名 【英】	柔道整復応用講座 2 Course of Judo Therapy Advanced			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月	時 限	6

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。 2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の対象となる主要な疾患ごとのリハビリテーションの内容を理解する。 柔道整復師としてリハビリテーション専門職と関わるときの共通言語の理解に繋げる。
到達目標	主要な疾患でのリハビリテーションを理解し説明することが出来る。 専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト100%
------	-----------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		運動器障害 1	骨折・変形性関節症・骨粗鬆症 高齢者の骨折・骨粗鬆症について説明できるようになる
2		運動器障害 2	上肢の運動器疾患 上肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
3		運動器障害 3	下肢の運動器疾患 下肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
4		運動器障害 4	体幹の運動器疾患 体幹の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
5		内部障害 1	呼吸機能障害・COPD・在宅酸素療法 呼吸機能障害を説明できるようになる
6		内部障害 2	心疾患リハビリテーション・運動処方 心臓機能障害を説明できるようになる
7		スポーツ・障害者スポーツ	スポーツリハビリテーション・障害者スポーツ スポーツリハビリテーション・障害者スポーツについて概説できるようになる
8		試験解説・まとめ	後期試験解説 後期で学習した範囲が説明できるようになる
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

科目名 【英】	柔道整復実技3 Judo Therapy Practical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	幼小児に発生する肘疾患、代表的な骨折の整復法を学ぶ。 骨折を整復する前後の診察法を学ぶ。
到達目標	肘内障、鎖骨骨折、上腕骨外科頸外転型骨折、上腕骨顆上伸展型骨折、コーレス骨折の整復の操作を実施できる。 臨床場において実際に活用できるレベル、かつ柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	実技マニュアル
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	15回目後に進級実技試験を実施し、整復実技1試験にて評価する。
------	---------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肘内障 整復法	肘内障の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
2	鎖骨骨折 整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
3	鎖骨骨折 整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
4	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
5	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
6	上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
7	上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
8	復習 1	1から7回の授業で学んだ4つの整復法を左右のどちらとも患肢として制限時間を設け時間内に実施できる。	
9	復習 2	1から7回の授業で学んだ4つの整復法を左右のどちらとも患肢として制限時間を設け時間内に実施できる。	
10	コーレス骨折 牽引直圧法 整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
11	コーレス骨折 牽引直圧法 整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
12	コーレス骨折 屈曲整復法	コーレス骨折屈曲整復法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
13	コーレス骨折 屈曲整復法	コーレス骨折屈曲整復法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
14	総復習 1	後期の授業で学んだ全て整復法を左右のどちらとも患肢として制限時間を設け時間内に実施できる。	
15	総復習 2	要点の整理。説明しながら整復法ができるようになる。	

科目名 【英】	柔道整復実技 4 Judo Therapy Practical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	上腕骨遠位端部骨折から手指部骨折を、下肢骨折・脱臼を学ぶ。
到達目標	上腕骨遠位端部骨折から手指部骨折の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論 改訂第6版
留意点 備 考	

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		上腕骨遠位部の骨折	上腕骨外顆骨折の特徴、症状、骨片転位が説明できる。
2		上腕骨遠位部の骨折	上腕骨内側上顆骨折の発生機序、骨片転位、症状、特徴が説明できる。
3		前腕骨近位部の骨折	橈骨近位端部骨折の発生機序、骨折型、症状、合併症が説明できる。
4		前腕骨近位部の骨折	肘頭骨折の発生機序、骨片転位、症状、合併症が説明できる。
5		肘関節部の軟部組織損傷	側副靱帯損傷・PLRIについて説明できる。
6		前腕部の損傷	モンテギア骨折の概説、分類、後遺症が説明できる。
7		前腕部の損傷	橈・尺両骨骨幹部骨折の発生機序、定型的骨片転位、症状、後遺症が説明できる。
8		手関節部の損傷	スミス骨折の発生機序、症状・手舟状骨骨折の分類、合併症、難治理由が説明できる。
9		手・指部の損傷	中節骨骨幹部骨折の発生機序、転位・ベネット骨折の発生機序、症状、注意点が説明できる。
10		手・指部の損傷	基節骨骨折の症状、後遺症・中節骨骨折の概要、症状が説明できる。
11		手・指部の損傷	マレットフィンガーの分類、症状・第1指MP関節脱臼の発生機序、症状が説明できる。
12		手・指部の軟部組織損傷	第1MP関節側副靱帯損傷の概説、ロッキングフィンガーの症状、整復法が説明できる。
13		股関節部の損傷	股関節脱臼の概説、分類、合併症、後遺症が説明できる。
14		大腿部の損傷	大腿骨骨幹部骨折の概説、発生機序、分類、症状が説明できる。
15		膝関節部の損傷	膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼の分類、発生機序、症状が説明できる。

科目名 【英】	柔道整復実技 5 i Judo Therapy Practical Training 5 i			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	手・指部の損傷を学ぶ
到達目標	手・指部の損傷の国家試験問題を解けるようにする

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）を復習する
使用教材	柔整理論 改訂第6版
留意点 備 考	特有の外観変形などで、疾患を連想できるようにしてください

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		手・指部の損傷 1	手・指の解剖と機能
2		手・指部の損傷 2	中手骨部の骨折の分類（中手骨骨頭部・中手骨頸部・中手骨骨幹部の症状）を理解する
3		手・指部の損傷 3	ベネット骨折の発生機序、症状、注意事項を理解する。ローランド骨折の理解。
4		手・指部の損傷 4	CM関節の発生機序、症状を理解する。指骨の骨折（基節骨の分類）を理解する。
5		手・指部の損傷 5	中節骨骨折（頸部・骨幹部・掌側板付着部裂利骨折）の概説、症状を理解する。
6		手・指部の損傷 6	末節骨骨折の分類、転位を理解する。マレットフィンガーの分類、症状を理解する。
7		手・指部の損傷 7	MP関節脱臼の分類、発生機序、症状を理解する。
8		手・指部の損傷 8	P I P 関節脱臼の分類、発生機序、症状、整復法を理解する。
9		手・指部の損傷 9	D I P 関節脱臼の発生機序、症状、固定法を理解する。
10		手・指部の損傷10	第1MP関節側副靱帯損傷の概説、発生機序症状について理解する。
11		手・指部の損傷11	ロッキングフィンガーの概説、症状、整復法を理解する。
12		手・指部の損傷12	ばね指・デュプイトラン拘縮を理解する。
13		手・指部の損傷13	ヘバーデン結節・ボタン穴・スワンネック変形を理解する。
14		手・指部の損傷14	注意すべき疾患（RA、ひょうそ、グロムス腫瘍）を理解する。
15		手・指部の損傷15	後期の総復習、テスト対策
16			

科目名 【英】	柔道整復実技 5 ii Judo Therapy Practical Training 5 ii			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数		単 位	
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6
担当教員	正木 大吾 堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月				
学習内容	下腿部の損傷を学ぶ						
到達目標	下腿部の疾患（骨折・脱臼・軟損）を理解し、国家試験問題を解けるようになる。						
準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）を復習する						
使用教材	柔整理論 改訂第6版						
留意点 備 考	特有の外観変形などで、疾患を連想できるようにしてください						
成績評価	100% 定期試験評価						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		下腿部の損傷 1	解剖と機能（下腿部の神経・筋、デルマトーム）の理解を理解する
2		下腿部の損傷 2	下腿骨骨幹部骨折（脛骨単独・脛腓両骨骨折）の発生機序を理解を理解する
3		下腿部の損傷 3	下腿骨骨幹部骨折（脛骨単独・脛腓両骨骨折）の転位・症状を理解を理解する
4		下腿部の損傷 4	下腿骨骨幹部骨折（脛骨単独・脛腓両骨骨折）の整復・後遺症を理解する
5		下腿部の損傷 5	腓骨骨幹部単独骨折の症状・後遺症を理解する
6		下腿部の損傷 6	下腿骨果上骨折の概説・発生機序を理解する
7		下腿部の損傷 7	下腿骨果上骨折の症状・治療法を理解する
8		下腿部の損傷 8	下腿骨疲労骨折の概説・分類・症状を理解する
9		下腿部の損傷 9	アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎の概説・発生機序・治療を理解する
10		下腿部の損傷10	アキレス腱断裂の概説・分類・症状・徒手検査を理解する
11		下腿部の損傷11	下腿三頭筋の肉離れ概説・症状を理解する
12		下腿部の損傷12	シンスプリントの発生機序・症状を理解する
13		下腿部の損傷13	コンパートメントの発生機序症状を理解する
14		下腿部の損傷14	下腿感染症・下腿腫瘍・下肢血行障害を理解する
15		下腿部の損傷15	後期の総復習、テスト対策
16			

科目名 【英】	柔道整復実技 6 Judo Therapy Practical Training 6			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2019年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	下肢の骨折や脱臼についての発生機転・症状を覚えやすい方法で学ぶ。基本的な柔道整復理論を理解する事によって、1年次に履修した基礎医学（解剖学・生理学）を通して観察・判断し、適切な処置が出来るような思考法を培い、基本的な処置原則を身につけることを学ぶ。また、3年次に必要な基礎的な知識を学習する。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、教科書『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	授業に参加されない方、授業の妨害をされる方は欠課とすることがあります。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験97%、小テスト2%、出席率1%で評価する。
------	---

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		下腿骨遠位端部骨折1	小テスト・腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折（発生機序、転位、症状、整復法、固定法、後療法、後遺症）を説明することができる。
2		下腿骨遠位端部骨折2	前回の復習・小テスト・下腿骨疲労骨折（分類、発生機序、症状、治療法）・ラウゲ＝ハンセン分類（PAB損傷・SAD損傷）を説明することができる。
3		足根骨部の骨折1	前回の復習・小テスト・足関節のバイオメカニクス、距骨の解剖・距骨骨折の分類を説明することができる。
4		足根骨部の骨折1	前回の復習・小テスト・足関節のバイオメカニクス、距骨の解剖・距骨骨折の分類を説明することができる。
5		足根骨部の骨折2	前回の復習・小テスト・発生機転、症状、治療法、踵骨の解剖、発生機転、分類、症状、ペーラー角、を説明することができる。
6		足根骨部の骨折3	前回の復習・小テスト・舟状骨の解剖、発生機転、分類、症状、治療法、鑑別を説明することができる。
7		足関節部の脱臼1	前回の復習・小テスト・足の解剖、運動学ショパール関節脱臼（分類、特徴）を説明することができる。
8		足関節部の脱臼2	前回の復習・小テスト・リスフラン関節脱臼（分類、特徴）・中足指節関節脱臼（発生機序、症状、治療法）を説明することができる。
9		足関節部の軟部組織損傷	前回の復習・小テスト・足部の靱帯解剖と診察法、足の靱帯損傷発生機序、症状、治療法・足アーチに足アーチについて説明することができる。足部の有痛性の各疾患を説明することができる。
10		中足骨の骨折	前回の復習・小テスト・その他の足根骨解剖、分類、治療法、足の解剖、足アーチについて、発生機序による分類、症状を説明することができる。
11		中足骨・趾骨骨折の骨折	前回の復習・小テスト・中足骨骨折治療法、予後、足趾、趾骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法を説明することができる。
12		足根骨の脱臼と軟部組織損傷1	前回の復習・小テスト・足部の靱帯解剖と診察法、足の靱帯損傷発生機序、症状、治療法・足アーチについて説明できる。
13		足根骨の脱臼と軟部組織損傷2	前回の復習・小テスト・Sever病、アキレス腱滑液包炎、有痛性三角骨、有痛性外脛骨、踵骨棘、足底腱膜炎、第1Kohler病について説明できる。
14		足根骨の脱臼と軟部組織損傷3	前回の復習・小テスト・外反母趾、種子骨障害、フライバーグ病、モートン病について説明できる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔道 3 Judo 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	中村 義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（手技・腰技）や礼法を習得する。
到達目標	形や礼法を習得し、行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	1年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備 考	準備運動としてストレッチや受け身を取り外傷を予防する。

成績評価	15回目後に進級実技試験を実施し、柔道実技試験にて評価する。
------	--------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		受け身	横・前回り受け身を行うことができる。
2		約束乱取 1	大外刈や体落の技の基本を学び行うことができる。
3		約束乱取 2	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
4		約束乱取 3	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
5		形（手技） 1	講道館の形について学ぶ 浮落の形（右投）を学び行うことができる。
6		形（手技） 2	講道館の形について学ぶ 浮落の形（左投）を学び行うことができる。
7		形（手技） 3	浮落の形を左投、右投を行うことができる。
8		形（手技） 4	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
9		形（手技） 5	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
10		形（手技） 6	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
11		形（手技） 7	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
12		形（手技） 8	講道館の形について学ぶ 肩車の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
13		形（腰技）	講道館の形について学ぶ 浮腰の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
14		復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
15		復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。

科目名 【英】	生理学 3 Physiology 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金	時 限	7

担当教員	三島 隆章	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	小児期から青年期に至る発育発達特性や競技者における身体の生理学的特徴を理解すること、また、成長期を経て高齢期に至る過程で身体に生じる生理学的特徴および変化を理解することは、大変意義なものである。そこで本講義では、小児期から青年期、さらには高齢期に到るまでのライフステージに沿って、生理学的な特徴や変化を学習する。
到達目標	小児期から青年期に至るまでの発育発達特性、競技者の生理学的特徴を理解し、説明することができる。また、高齢者の生理学的特徴および変化を理解し、説明をすることができる。

準備学習 時間外学習	準備学習として、授業計画を参照のうえ積極的な情報収集を行った上での受講を望む。時間外学習としては、授業での学習内容を日々目や耳にする情報と関連付けて理解を深めることを望む。
使用教材	教科書は使用しない。毎時配布するテキストとパワーポイントを用いての講義が中心となる。
留意点 備 考	授業計画は授業の進行状況により前後することや変更する場合がある。

成績評価	期末試験60%、毎時のレポート20%、受講態度20%
------	----------------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化1	小児期から青年期の発育曲線 小児期から青年期までの発育曲線について説明できる。
2	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化2	小児期から青年期の発育の特徴 小児期から青年期までの身長、体重、骨および筋の発育の特徴について説明できる。
3	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化3	小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動 小児期から青年期までの呼吸機能、心臓の形態および循環機能の発達について説明できる。
4	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化4	発育期の運動不足・過運動の影響 発育期の運動不足、トレーニングの三大原則、過運動および骨の病気について説明できる。
5	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化5	運動の発達と習熟 運動の発達と習熟として、歩行と走行、持久力の発達について説明できる。
6	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化6	トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化および神経機構の変化 トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化、神経機能の変化を説明できる。
7	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化7	トレーニングによる姿勢調節能力の変化および眼球運動と姿勢制御 トレーニングによる姿勢調節能力の変化や眼球運動と姿勢制御について説明できる。
8	高齢者の生理学的特徴・変化1	細胞・組織の加齢現象 細胞、生体膜、細胞内小器官、体内水分量の加齢変化について説明できる。
9	高齢者の生理学的特徴・変化2	加齢による臓器機能の変化 加齢による神経系、運動器系の変化について説明することができる。
10	高齢者の生理学的特徴・変化3	加齢による感覚器系の変化 加齢による視覚、聴覚、嗅覚、味覚および前庭感覚の変化を説明することができる。
11	高齢者の生理学的特徴・変化4	加齢による呼吸循環器系の変化 加齢による循環器系、呼吸器系、消化器系および皮膚の変化を説明できる。
12	高齢者の生理学的特徴・変化5	高齢者に多い疾患・障害1 高齢者に多い疾患・障害としてフレイルおよび認知症を説明できる。
13	高齢者の生理学的特徴・変化6	高齢者に多い疾患・障害2 高齢者に多い疾患・障害として骨粗鬆症、転倒および睡眠障害について説明できる。
14	高齢者の生理学的特徴・変化7	運動と加齢 歩行機能、平衡機能および反応時間の加齢変化について説明することができる。
15	まとめ	期末試験のフィードバックを行うことで、講義全体の理解を深める。
16		

科目名 【英】	臨床実習3 Clinical Training3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日		時 限	

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	臨床体験、臨床見学を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を修得する
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対し、適切な態度で接する。

準備学習 時間外学習	1. 施術所で患者に不快感を与えない身嗜みを整える。 2. 施術者に相応しい挨拶（自己紹介）ができる。 3. 施術所で患者に不快感を与えない態度、適切な言葉づかいができること。 4. 医学的な清潔の意味が説明できること。 5. 施術所の清潔保持の重要性について説明できること。 6. 守秘義務を説明できること。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】						
1		基礎実習	1) 柔道整復師として相応しい服装、身嗜み、態度を身に付ける 2) 医療面接の実施 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5) 治療器械の効果、禁忌の理解 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 1) 環境準備 2) 受付業務 3) 患者さんの誘導を実施			
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9		患者さんに対する対応	1) 患者に対して適切な対応ができる。 2) 患者の抱える問題点に共感できる。 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。			
10						
11						
12						
13		施術録作成・症例検討	1) 施術録の記載 2) 症例検討の実施			
14						
15						
16						
17		保険請求	1) 手続きの意義 2) 記載方法の実施			
18						
19						
20						
21		実習期間	時間数	回数	総時間	期間
22			8時間(全日)	6回 (6回目は5時間)	45時間	8月中の1週間
23						

科目名 【英】	解剖生理学 2 Anatomy and Physiology 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	池 宏海	実務者経験	大阪歯科大学解剖学講座で大学院・助手・助教。講師として22年間従事。その後、池歯科医院を開設し地域歯科医療に従事ならびに専門学校の非常勤講師として解剖学・生理学の講義に従事し、現在に至る。				
------	------	-------	--	--	--	--	--

学習内容	医療に最も必要不可欠な解剖学・生理学を学ぶ。						
到達目標	解剖・生理学の国家試験過去問を解けるレベルにする。						

準備学習 時間外学習	解剖学 生理学						
使用教材	医歯薬出版 解剖学改定第2版 生理学改定第3版						
留意点 備 考							

成績評価	100%定期試験評価						
------	------------	--	--	--	--	--	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		内臓系 泌尿器 1	腎臓の構造、働きについて説明できる。
2		内臓系 泌尿器 2	尿管・膀胱・尿道の働き、構造について説明できる。
3		内臓系 生殖器 1	精巣と精巣上体・精管・精囊の構造、働きについて説明できる。
4		内臓系 生殖器 2	前立腺・尿道球腺・陰茎・陰囊の働き、構造について説明できる。
5		内臓系 生殖器 3	卵巣・卵管・子宮の働き、構造について説明できる。
6		内臓系 生殖器 4	膣・外陰部・会陰・胎盤の構造と働きについて説明できる。
7		感覚器系 1	皮膚・皮膚に付属する角質器の構造と働きについて説明できる。
8		感覚器系 2	眼球・光受容器・視覚路の構造と働きについて説明できる。
9		感覚器系 3	眼球付属器（眼瞼・涙器・眼筋）の構造と働きについて説明できる。
10		感覚器系 4	外耳・中耳・内耳の構造と働きについて説明できる。
11		感覚器系 5	平衡感覚路・聴覚路・味覚器の構造と働きについて説明できる。
12		感覚器系 6	嗅覚器（嗅上皮・嗅球・嗅覚中枢）の構造と働きについて説明できる。
13		運動系・骨格系 1	骨格系総論。関節の分類を復習する
14		運動系・骨格系 2	咀嚼筋・上肢の筋・下肢の筋を復習する
15		総復習	後期の振り返り、国家試験解説。